

むゆげ

108号
No.1108

2015(平成27)年
1月1日

ただただまっとう
だけならんだま
いさばぐさ
たからから
かたなしかが
ひとにはいさな
ただただまっとう
ひとにはいさな
くさしかが

みつこ


相田みつを美術館
オリジナルカレンダーより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30

浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話(072)696-0666

FAX(072)692-0769



新春法話

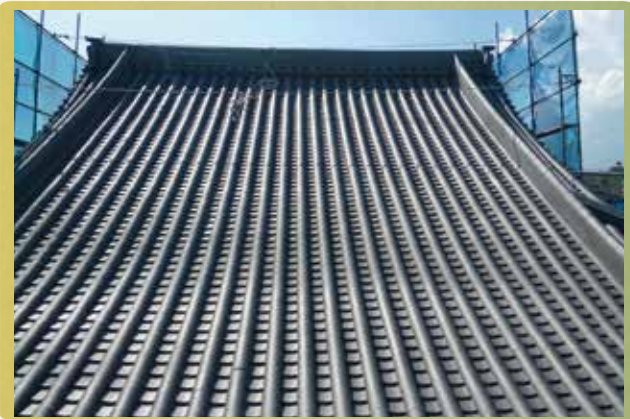
死から生への 呼びかけ

藤原千佳子著

(真宗大谷派浄秀寺前坊守)

私 は暮れが近づいてま
いりますと、三十二
年前に亡くなった祖母のこ
とを今も憶い出します。祖
母が亡くなったのは、大晦
日、十二月三十一日の午後十
一時四十五分でした。ちょう
ど近所の若者や子どもたち
の撞く除夜の鐘の音が境内
に響いていました。

もう少し早いか、遅けれ
ばなどという思いの間に
合わない、私たちの都合で
左右されない、一息の命のき
びしさを教えられました。
一月二日、喪服の用意をし
て帰省し、三日には、私を常
に慈しみ、お念仏申すこと
を何より願ってくれた祖母
は茶毘に付されました。行



本堂屋根施工後。見違えるように綺麗になりました!



本堂屋根施工前。約40年に亘って雨風に耐えていただきました。

平成二十七年(二〇二五年)

年回表

一周忌	平成二十六年	往生
三回忌	平成二十五年	往生
七回忌	平成二十二年	往生
十三回忌	平成十五年	往生
十七回忌	平成十一年	往生
二十五回忌	平成三年	往生
三十三回忌	昭和五十八年	往生
五十回忌	昭和四十一年	往生

※亡き方を通して、今私たちは一生懸命生きていますよ、とのお心をお忘れにならないようにお勤め下さい。お家のご都合で、祥月命日が過ぎててもよろしいですよ。

萬徳寺平成二十七年(二〇二五年)

年間行事予定表

◎本願寺ご正忌報恩講

団体参拝

仏教婦人会 一月十三日(火)

仏教壮年会 一月十二日(月)

◎門徒冥加金勘定日

一月二十五日(日)

◎仏教婦人会常例法座

二月、三月、九月

年九十一歳でした。今はもう白骨となってしまった祖母のお骨を拾う時、ふと私に祖母の声が聞こえてきました。

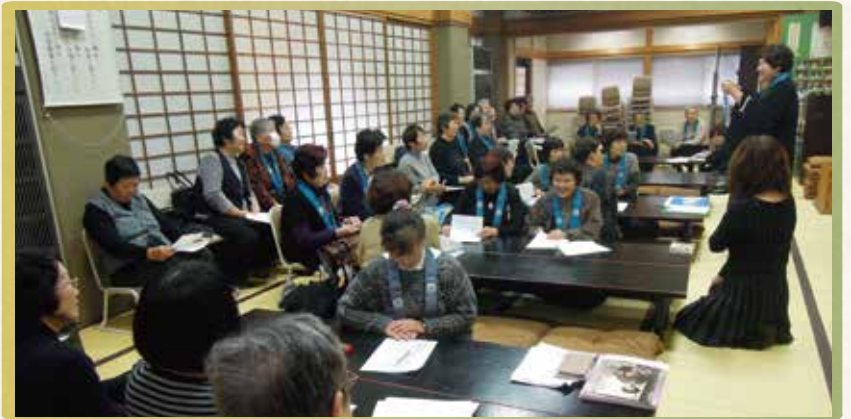
「千佳ちゃん、あんたもこの身になるんだよ」と。必ず死すべき身として、ただ今を生きている身を忘れて、忙しい、忙しいと追われて生活し、明日もあさってもあるように思っている私の意識に「死から生の呼びかけ」として、ふとこの祖母の声が私の耳元に甦ってきます。臨終には会えませんでした。したが、祖母は私の中に一念仏と共に今も生き続けているのです。それは同時に、この私をして、「今を生きよ」と大地に立たしめ、歩みとなってくれる「おはたらき」なのです。



11月8日、9日に萬徳寺報恩講が厳修されました。ご法話は、上原大信先生にお取り次ぎただいて、厳かに丁寧にそして賑やかに勤めさせていただきました。

私たちは、大晦日だ、お正月だと時に区切りをつけていますが、区切りのない永遠の時の流れの中に、今、今の尊い仏さまの一息を頂いているのです。

同時に一息も私の思いの間に合わない、きびしい生死無常のただ中だからこそ、無事の命を賜って新しい年を迎えられたことを寿ぐ（ことほ）ぐのでしょうか。



11月9日、平成26年度萬徳寺仏教婦人会総会が開催されました。

一日一度はお念仏申し上げましょう
我が声から出る南無阿弥陀仏は、
阿弥陀さまの喚び声ですよ
大きなお声でお念仏いたしましょう

◎花まつり

四月八日(水)

◎永代経法座

四月十二日(土)、十二日(日)

(講師 野村康治師)

◎人生講座

六月二十八日(日)

(女優 三林京子さん)

◎お経の練習会

八月下旬

◎報恩講法座

十一月十四日(土)、十五日(日)

(講師 宮部雅文 師)

◎除夜会

十二月三十一日(木)



住職の ひとり言



◆『生も死も 老いも病も そのままに またせてあゆむ
ひとすじの道』(鍋島俊樹氏)

◆二〇二五年(平成27年)、今年も新しい年を迎えることが出来た
不思議を思います。人生の生老病死の苦を少々体験し、昨日でな
い、明日でない、今日ある私をしつかりと見据えて、おかげさまの
いのちを生き抜いていきたいと思えます。 南無阿弥陀佛

◆昨年十一月十日に、昭和の大スターとも、銀幕の大スターとも
称された高倉健さんが亡くなりましたが、健さんの「辞世の言
葉」ともとれる座右の銘が話題になりました。「往く道は精進し
て、忍びて終わり悔いなし」。寡黙で、不器用なお人柄。さわやか
に、さつそうと八三年の命を終えられました。この辞世の言葉は、延
暦寺の大阿闍梨酒井雄哉師からいただかれたものです。そしてこ
の言葉はなんと『仏説無量寿経』の中に記された阿弥陀如来の願
いの言葉なのです。皆さま、毎日の勤行で勤めてられる「讚仏偈」
の最後の四句に「假令身止 諸苦毒中 我行精進 忍終不悔」。
その意味は(たと)い身を 諸々の苦毒の中に終わるとも 我が行
は精進にして忍びてついに 悔いじ)『たと)いどんな苦毒の中にあつ
ても、すべての人を救い切る「南無阿弥陀仏」として成就するまで
は、決して努力をやめない。どんな苦勞をしようと悔いはない』と
いう意味です。健さんは「阿弥陀さま」の願いが書かれたこの「讚
仏偈」の四句を辞世の言葉として本当に大切にされていたのだと

思います。『お浄土』を建立していただいた阿弥陀如来の願いが少し
皆さまのお心に少しふれていたいただいたら有り難いです。

個人情報により非表示にさせていただきます。

◆ 娑婆の業縁尽き、限りないのち安養の世界へと還られま
した。先に往かれたおじいちゃん、おばあちゃんが待つておられます。
そして親鸞聖人もお浄土で待つておられるんですよ。残されたお家
族の方々はこの尊いご縁に遇つて下さい。お念仏申しあげましょう。
お念仏はご仏壇の中、本堂の中だけにあるものではありません。毎日の
日暮らしの中にお念仏申しあげる世界があるんですよ。

◆ 昨秋に、本堂の屋根瓦が色落ちしておりましたのでペンキを塗つ
ていただいたおかげで、生まれ変わったように屋根瓦が光っています。
門信徒の皆さまのおかげでございます。厚くお礼を申しあげます。

個人情報により非表示にさせていただきます。

◆ 親鸞聖人の毎年のご法事でありまして、正忌報恩講が今年も二月九日
より十六日(親鸞聖人往生日)まで勤まります。二月九日より聖人ご危
篤「いささか不例の気まします、それよりこのかた 口に世事をまじえ
ず、ただ仏恩ふかきことをのべ：稱名たゆることなし、…ついに念仏の息
たえおわんぬ」。聖人九十歳のご生涯、最後の二時です。さあ!! 門信徒の
皆さまは、ご縁を得て本山の報恩講にお参りさせていただきますましよう。